

## 第9回 長南町過疎対策検討委員会議事録（要旨）

平成25年5月31日（金）

庁舎分館2階第一会議室

18時30分から

出席者 過疎対策検討委員会委員8名 アドバイザー1名

傍聴者5名

事務局 石橋 常泉

会議資料

一宮町・睦沢町のSNS活用事例について

### 1. 委員長あいさつ

本日も活発な意見を出していただきたいと思います。よろしく申し上げます。会議に入る前に、事務局から広報チラシの進捗状況の報告がありますので、お願いします。

事務局：今年度最初の委員会で、広報チラシを每户配布できると申し上げましたが、その後内部で協議した結果、現時点では每户配布は見送り、町ホームページへ掲載することで進めようということになりました。また、ホームページに掲載するにあたり、若干の修正をお願いしたい部分もごさいますので、今後情報発信部会とも協議を進めさせていただきたいと考えています。

委員長：何か意見ございますか。

Q：理由を聞かせていただきたい。

A：町の状況をある程度知っていただくのは良いと判断しましたが、過疎指定を受けて、町として何もしていないわけではないし、「過疎イコール悪いことではない」という認識があつてのことです。

Q：各戸配布はできないが、役場の目につくところに置くことはできませんか。

A：前向きに検討させていただきます。

委員長：今後、協議の場を設けていきたいと思います。

### 2. 検討・協議の内容

委員長：前回から3部会に分かれ、政策的なものを発表していただきましたが、各委員から意見が出されています。それに対して、検討した結果を発表していただきたいと思います。  
まず、「市」部会から説明をお願いします。

I委員：サポートするのは町民だが、主要なところは町がないと解決できないことが多い。両者が一緒にやるのが良い。(実行)委員会(をつくる)なら、町民側と町側の双方からなるものが良い。

委員長：コンセプトの決定については、この委員会ではなく、「市」を立ち上げる時につくる町と実行委員会のなかで決めていくという案です。これについて、ご意見ありますか。

S委員：実行委員会を立ち上げるなかで、決定していったほうが良いと思います。

N委員：こちらで持っている、何種類かの考え方を出すような形になったほうが良いのではないか。

I：提案・提言をまとめようとしているので、そのアウトプットを見ながら、それに当てはめていったらいいと思う。

委員長：この委員会の目的は、若者の移住、定住を図ることが第一なので、この市についても、なるべく40歳以下の方々が来るような市にしていただかないとあまり効果がないと思います。長南町として、独自の「市」をつくっていただかなければならないと思います。

委員長：次に空き家部会をお願いします。

T委員：空き家のほうは、前回ご案内したものが「提案の案」ということで、それから特に動きはありません。また、前回ご質問いただいた新築の件については、行政がいっしょになってやらなければならないが、国の制度で、事例としてはあります。

委員長：次に情報発信部会についてをお願いします。

M委員：睦沢町、一宮町で活発な情報発信をしているとのことで、状況を伺ってきているので、A委員、B委員から発表させていただきます。

B委員：睦沢町がまちづくり関係で使用しているのは、フェイスブックとブログの2種類あります。これは、去年の夏ごろスタートしています。運営主体として、フェイスブックは町役場総務課政策企画班で担当。ブログは、まちづくり委員会が主に情報発信していて、委員全員の持ち回りです。内容は、うめ丸君が登場するイベントの告知と、その内容のレポート、うめ丸グッズの宣伝も行っている。フェイスブックはそのブログの中から、行政として使える記事を引用する形で発信し、町のホームページでも引用しています。更新頻度は、フェイスブックが週4回程度、ブログが週2回程度です。SNS導入のきっかけは、うめ丸応援団という団体が、町民と行政の協働で若者定住促進を目的としたものです。活動の初期段階は、フェイスブックを推進していたが、発信する段階でいろいろな懸念も生じてきたということです。その後の動きとして、課題をどのように埋めていくのかを検討するために、部会が設立され、運営主体が誰になるかで扱える内容が制限されることを確認した。町とまちづくり委員会がどちらか一方で情報発信を担うのではなく、フェイスブックとブログの両方でPR活動をする事となりました。

T委員：問題は、SNSにこだわると、フェイスブックはアカウントの問題が出てくる。行政は基本的には「公」のことで、ITの世界では、SNSを行政が使うことは賛否両論あります。SNSは、あくまでも個人的なつながりであって、それを便利だからといって行政が使うことは町の職員も含めて、リスクを負うことになる。確かにフェイスブックは使い勝手がいいが、利便性とリスクは別物なので、そのことを理解していただきたい。

I：フェイスブックを見るだけのものに使うのだったら、ホームページと同じ。もう一度メリット、デメリットを整理して組み立てなおさなければならない。

A委員：一宮町では、フェイスブック、ツイッターを使っていて、フェイスブックは2012年3月、ツイッターは2010年6月から始めている。どちらも役場企画財政グループ2名に任せている。情報は、良識の範囲内で発信することを前提としてルールは特につくっていない。もう一つは町のホームページ以外に「一宮クリップ」というものがあり、まちづくり推進課がつくっていて、この中で一宮町のいろいろな人を紹介している。

I：情報発信にお願いされているのは、システム（仕組み）をどうつくっていくかの提案であると思います。ITだけではなくて、他の物も含めた効果的な発信方法をいくつか提案できたらいいと思う。

委員長：フェイスブックは活用しなくても、今のホームページでいいのではないか。あえて危険を冒さなくてもいいということだと思いますが。

A委員：あとは町で判断してやっていただければと思います。

T委員：いかに新しい情報を入れるか、楽しい形に見せるかがポイント。

委員長：インターネットでは、3分の1くらいの人達が見ているが、ほかの3分の2の人たちへの情報の発信はどのように考えていますか。

A委員：一宮クリップを見られない人たちには、電子書籍があつて、それを印刷して、紙媒体としてもらえるとのこと。

T委員：情報発信は、インターネットに傾いているように思えるが、例えばローカルテレビ、新聞などを上手に使う方法もある。

……………「提案書」の様式について協議……………

N委員：提案をまとめていくうえで、委員の中にネイティブ（町の状況をよく知った方）を入れることはできますか。

委員長：これから産業振興、福祉の関係が出てくるが、これは住民との密接な関係がある。現場の意見・課題を聞くために、「一本釣り」でもいいと個人的には思っています。

T委員：意欲があればいいのでは。委員が増えれば、いろいろな知恵が入ってくると思うので。

委員長：町としてそれは可能でしょうか。参加希望者があればですが。

町：可能であると思います。しかし、農業に精通した方はたくさんいると思いますが、こういった活動に賛同してくれる方がいるのかということもあります。農業については、営農組織をつくることを町全体で進めていますので、敢えてここで議論をしなくてもよいのではないかと思います。

T委員：委員長と事務局で協議していただくことでいかがでしょうか。

委員長：委員については、町と私のほうで考えたいと思います。長時間に

わたり活発な議論をいただきありがとうございました。以上で会議を閉じます。次回の会議は、6月21日（金）、午後6時30分から行います（場所は、分館第一会議室）。

午後9時5分閉会